

今日のみことば

□ 10月15日(日) レビ記 5章

規定された罪祭の犠牲動物が用意できない貧しい人たちのために設けられた贖罪の手段は、神の側からの大いなる譲歩を示したものである。

□ 10月16日(月) レビ記 6章

ここでは公衆の公的の燔祭が扱われている。その燔祭における祭司の服装について、大祭司の日ごとの素祭や、燔祭をほふる場所についての注意などです。

□ 10月17日(火) レビ記 7章

ささげ物については、それぞれ目的に応じて、異なったささげ物が求められた。民が従わなければならない多くの儀式と指示が与えられている。

□ 10月18日(水) レビ記 8章

ここには念入りの儀式のことが記されている。その儀式によってアロンとその子らは祭司に任命された。モーセは彼らのために祭司の義務を行った。

□ 10月19日(木) レビ記 9章

七日間の任職の期間が過ぎて、祭司は民のための職務に公に就いた。犠牲が全部ささげられたあとで、アロンは祭壇の側に立ったまま民を祝福した。

□ 10月20日(金) レビ記 10章

ナダブとアビブが犯した罪は厳しく罰せられたが、どうゆう性質のものかはっきりしていない。彼らの罪は、冒瀆の罪にあたり「聖なるものを犯す」ことであった。

□ 10月21日(土) レビ記 11章

汚れの罪について述べられる。きよい動物、汚れた動物などの区別を通して、儀式的きよさの保持は、聖なる神の民にとって必要なことであった。

ろ ぼ No. 1837
2017年 10月15日
日本バプテスト立川キリスト教会
牧師 大川 博之

ヨハネ 4:50

イエスは言われた。「帰りなさい。あなたの息子は生きる。」その人は、イエスの言われた言葉を信じて帰って行った。

「わたしの神は、ご自分の栄光の富に応じて、キリスト・イエスによって、あなたがたに必要なものすべてを満たして下さいます」(フィリ°4:19)とパウロはフィリピ教会の人たちに告げました。神さまは私たちの必要を満たしたく下さるお方です。だから私たちは求めていくのです。私たちは日常生活の中で、何のために生きているかなど考えることなどありません。ただ生きたいだけです。いいえ、多くの方たちは目的を持っておられます。神さまはそのように私たちが創造なさいました。私たちが神さまが創造された世界をしっかりと管理し、そのご栄光を表すことを願っておいでです。

そのために神さまは私たちの必要を満たし、私たちが幸せいっばいに生きることを願っておいでです。イエスは「求めよ。そうすれば与えられる。捜せ。そうすれば見いだす。門を叩け。そうすれば開けてもらえる」(マ17:7)と言われた言葉をご存じでしょう。重い皮膚病を病んでいた人が、イエスに「御心ならば私を清くすることがお出来になります」といやしを求めて来たとき、「イエスは深く憐れんで、手を差し伸べてその人に触れ『よろしい、清くなれ』と言われると、たちまち重い皮膚病は去り、その人は清くなった」とあります。その人は、思いはあったけれども、どのようにその思いを表したらよいかわかりませんでしたから、「御心ならば」とイエスの請うたのでした。

そのような遠慮はいらない。イエスは「求めよ。そうすれば与えられる」と言われるのです。

たとえその求めがぼんやりしたものであっても、とにかくイエスの下へくることを待っておいでです。ニコデモは敬虔な律法学者でした。神さまの御心は、学び、十分に理解をしていると考えていましたが、イエスの出現によって心が揺らぎましたそこでこっそりと夜中にイエスを訪ねました。イエスは何が欠けているかを教えられて真実を知り、そこに生きる者とされました(ヨハ3:1-21)。

神さまは、求めてくる者には必ず応えて下さいます。妨げが多くて不可能だと思ったときには、神さまから近づいて来てくださるのです。ザアカイは救いを求めて、イエスと会いたいと願いましたが、通常ではかなえられないので奇策を労してイエスを待ちました。イエスはそのザアカイの側近くに来て「ザアカイ、急いで降りてきなさい。今日は、ぜひあなたの家に泊まりたい」と言われ、イエスを迎え入れて、彼は必要を満たされて、変えられました(ルカ19:1-10)。

パウロは「わたしを強めてくださるお方のお陰で、わたしにはすべてが可能です」(7イリビ°4:13)と言います。私たちが必要とするものがあるなら、遠慮せずにイエスのもとにくることです。イエスのその求めを拒まれることは決してありません。ジャック・ヘイフォード牧師が「クリスチャンの積極的生き方」についてこう語りました。神の幻(ビジョン・希望)をしっかり握ること(ハブル11:1)。神は私に対するビジョンを持っておられる。行き詰まっても「喜び歌うこと」(イザヤ54:1)。いのちがあふれているから、と。

————— 《 聖書の学び・祈祷会 》 —————

ヨブ記 38:1-11 主は嵐の中から

エリフの言葉は、神の言葉を先取りしたものでした。

そこで神は「嵐の中から」ヨブに応えられました。この嵐はヨブを怖がらせるものではなく、神が現れたことの証しです。神ご自身がヨブに語りかけられました。

神が最初に口にされたのは、ヨブへの詰問です。「知識もなく言い分を述べて、摂理を暗くするこの者はだれか」と。ここにヨブ記を理解するカギがあります。ヨブの言葉が全く無価値とされたとたのではないが、ヨブはもう一度、新たな覚悟をもって神の前に立たなければならなかった。

ヨブの言葉を受けて神は「わたしが地の基を定めたとき、あなたはどこにいたのか」と問われる。この間に答えうるものはない。人は自然を観察し、探求することは出来ても、創造のみわざに立ち会うことは出来ないのです。私たちは、神さまのご計画の中に、ご経緯の中にあるのです。



Read God's Word.

次週の聖書・説教	ヨハネ4:46-53	いかに助けを得るか
----------	------------	-----------